

はじめに

教師は、授業で教科内容を教えます。

教えた後にテストを行い、子どもの学びの様子を確認します。

一見すれば、それは当たり前のやり方です。

しかしながら、この方法には、どこか慢心があるともいえます。

それは、「教師である私は教えるべきことを教えた。学べていないのは子どもが悪い」という考え方です。

学校では、授業で教科内容を教えて、後は宿題や自主学習で復習させて、テストを課すような構造ができています。

習熟の時間は、もっぱら宿題などの家庭学習に頼っており、学校の授業内にはほとんど設けられていないのです。

カリキュラムの多さから鑑みても、それは自然な流れといえるのかもしれませんが。しかし、本書は、そのような授業の構成を否定します。

適切な時間を設定して、適切な指導さえやれば、どの子どもでもできるようになる。

ただ、できるようになるための時間が、子どもによって違うのです。

だから、できるようになるために、授業時間の中に習熟の時間を用意します。

まだできない子どもには支援して、どの子どもでもできるようにさせるのです。

そうすれば、学級全体の成功経験が得られるようになるはずです。

そんなに難しいことはありません。

準備も大して必要ありません。

学級の子どもたち全員に、「できる」体験を。

完全習得学習の思想と方法で、学級の子どもたちの力を確実に伸ばしましょう。

